

「土曜日を活用した教育の在り方」に関する調査の結果について(概要)

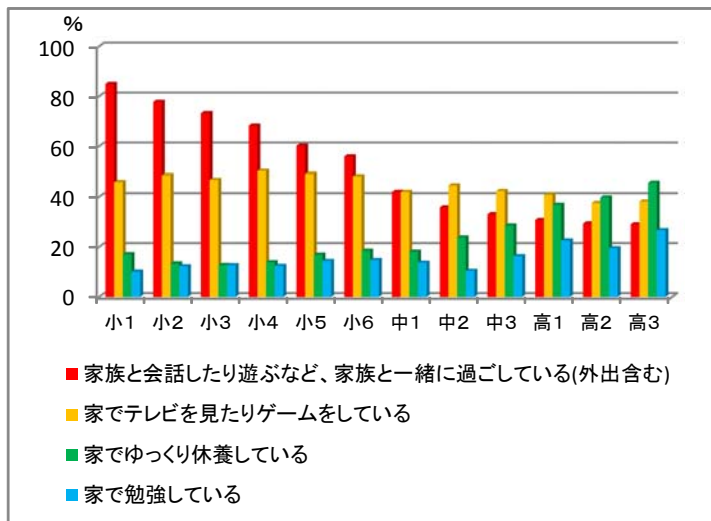
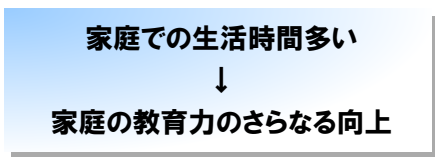
I 小・中・高等学校

1 保護者アンケート

(1) 土曜日の過ごし方 (問2 複数回答：3つ以内)

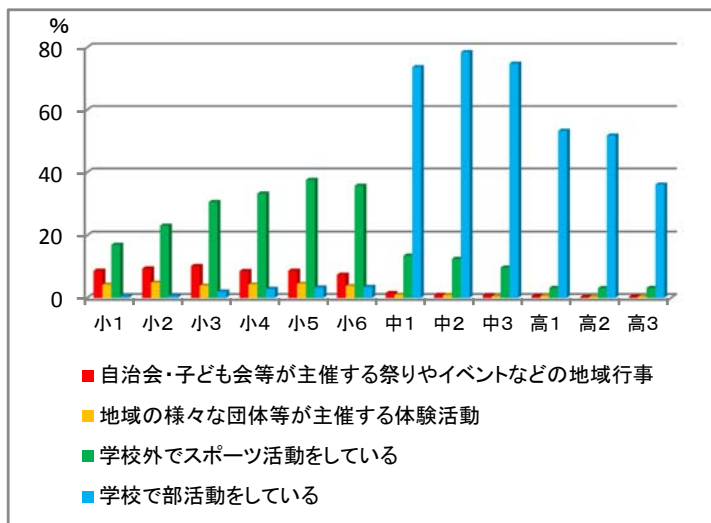
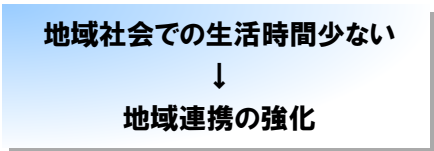
①家庭での過ごし方

- ◆「家族と一緒に過ごしている」は学年を追うごとに減少し、中学生からは「テレビやゲーム」を下回る。その一方で「ゆっくり休養」が増加。
- ◆「家で勉強」は学年を追うごとに増加しているが、中・高校とともに2年生で減少。



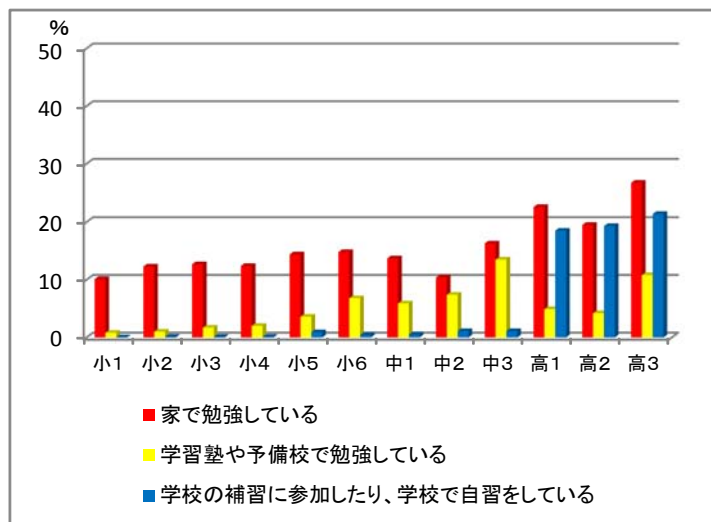
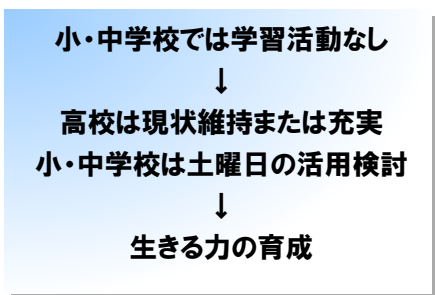
②家庭外での過ごし方

- ◆小学校では「学校外のスポーツ」、中・高校では「部活動」が家庭外での主要な活動の場となっている。
- ◆地域行事には少ないながらも小学生が参加しているが、地域の体験活動に参加している児童・生徒は非常に少ない。



③学習の状況

- ◆高校では、補習等の取組がある程度定着。
- ◆小6・中3・高3では、「塾・予備校で勉強」が増加。



(2) 問3で子どもの土曜日の過ごし方について「充実していると思う」「充実していないと思う」と回答した保護者の問2での回答状況

<小学校>

「充実していると思う」(小学校全体の51.4%)		
1	70.7%	家族と一緒に過ごしている
2	47.4%	近所の友だちと遊んでいる
3	41.5%	学校外でスポーツ活動をしている

「充実していないと思う」(小学校全体の14.0%)		
1	76.3%	家でテレビを見たりゲームをしている
2	60.2%	家族と一緒に過ごしている
3	47.0%	近所の友だちと遊んでいる

<中学校>

「充実していると思う」(中学校全体の56.0%)		
1	79.5%	学校で部活動をしている
2	37.4%	家族と一緒に過ごしている
3	28.9%	家でテレビを見たりゲームをしている
4	28.2%	近所の友だちと遊んでいる

「充実していないと思う」(中学校全体の12.8%)		
1	72.9%	家でテレビを見たりゲームをしている
2	59.4%	学校で部活動をしている
3	33.5%	近所の友だちと遊んでいる
3	33.5%	家でゆっくり休養している

<高校>

「充実していると思う」(高校全体の56.4%)		
1	62.4%	学校で部活動をしている
2	31.3%	家でゆっくり休養している
3	27.3%	家族と一緒に過ごしている

「充実していないと思う」(高校全体の14.2%)		
1	72.6%	家でテレビを見たりゲームをしている
2	55.2%	家でゆっくり休養している
3	30.3%	家族と一緒に過ごしている

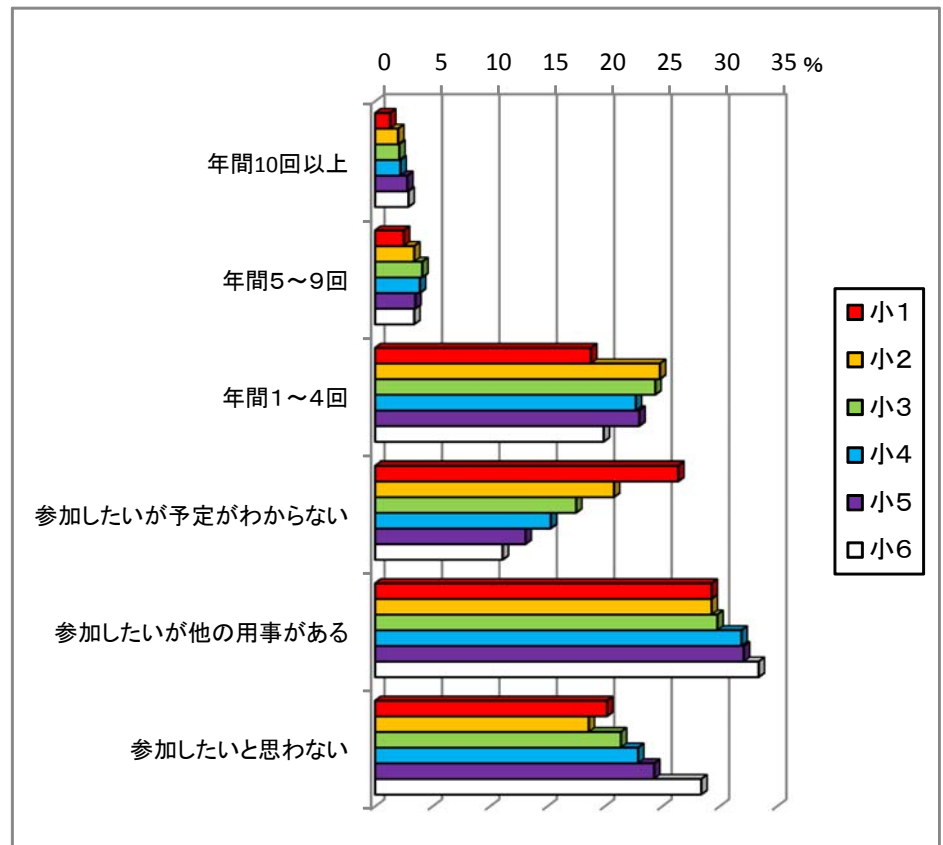
- ◆「充実している」と回答した保護者は、問2で「部活動・学校外でスポーツ活動」や「家族と一緒に過ごしている」と回答している。
- ◆小・中・高校ともに、「充実していない」と回答した保護者は、問2で「家でテレビを見たりゲームをしている」と回答している。

**ゆとりを活かせていない
子どもの存在**
↓
社会総がかりで取り組む教育

(3) 子どもの地域主催の体験活動への参加状況 (問4)

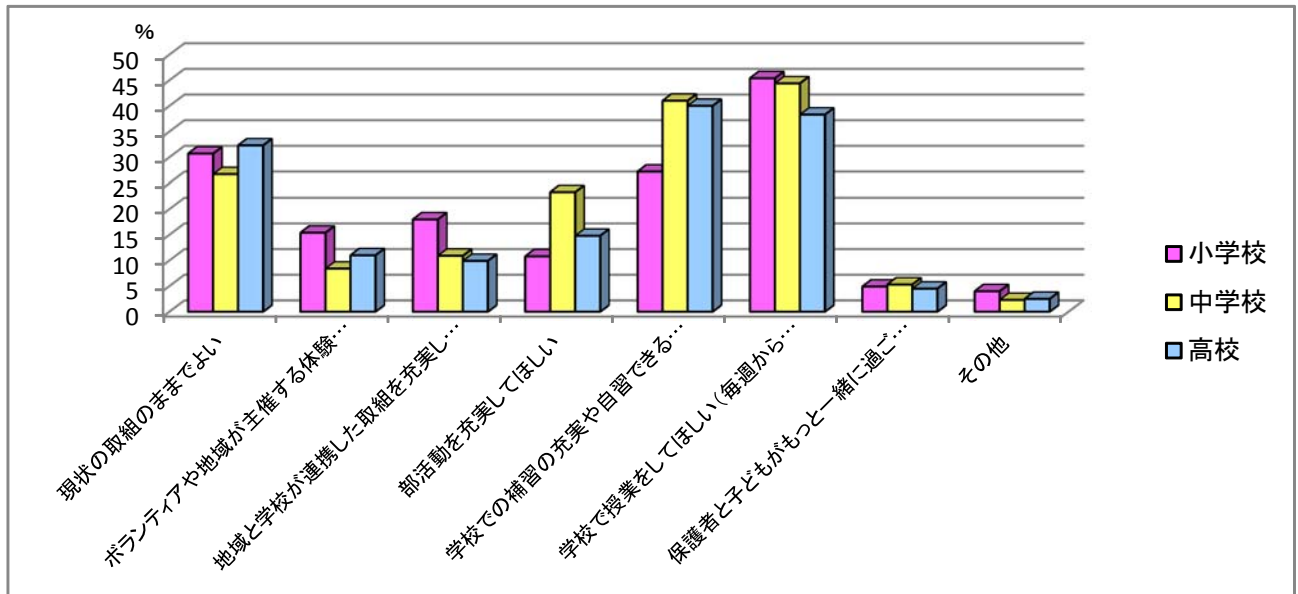
- ◆「参加したいが、実施予定などがわからないため参加できない」の回答が小学校低学年で多い。
- ◆年間10回以上参加した児童は高学年でやや多い。

低学年ではニーズあり
↓
低学年への周知・広報による参加率定着



(4) 子どもの土曜日の過ごし方についての保護者の教育行政に対する要望 (問5 複数回答：2つ以内)

①全体



②問3で子どもの土曜日の過ごし方について「充実していると思う」「充実していないと思う」と回答した保護者の問5での回答状況

<小学校>

「充実していると思う」(小学校全体の51.4%)		
1	45.5%	現状の取組のままでよい
2	31.1%	学校で授業をしてほしい
3	19.1%	学校で補習や自習をしてほしい

「充実していないと思う」(小学校全体の14.0%)		
1	75.5%	学校で授業をしてほしい
2	41.7%	学校で補習や自習をしてほしい
3	19.8%	地域と学校が連携した取組を充実

<中学校>

「充実していると思う」(中学校全体の56.0%)		
1	37.9%	現状の取組のままでよい
2	34.5%	学校で授業をしてほしい
3	33.3%	学校で補習や自習をしてほしい

「充実していないと思う」(中学校全体の12.8%)		
1	69.0%	学校で授業をしてほしい
2	58.7%	学校で補習や自習をしてほしい
3	21.0%	部活動を充実してほしい

<高校>

「充実していると思う」(高校全体の56.4%)		
1	43.0%	現状の取組のままでよい
2	32.3%	学校で補習や自習をしてほしい
3	27.9%	学校で授業をしてほしい

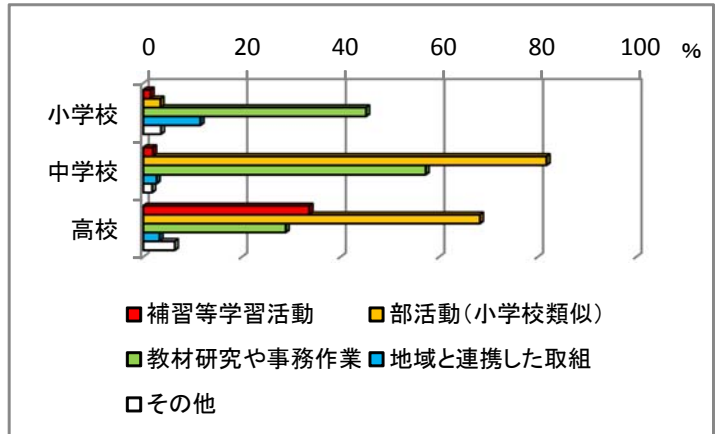
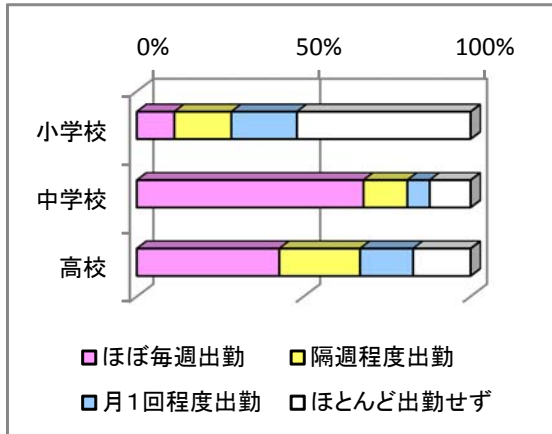
「充実していないと思う」(高校全体の14.2%)		
1	63.2%	学校で授業をしてほしい
2	52.8%	学校で補習や自習をしてほしい
3	15.8%	地域が主催する体験活動を充実

- ◆「充実している」と回答した保護者は、問5で「現状の取組のままでよい」と回答しており、次に必要な取組として「授業」や「補習・自習」をあげている。
- ◆「充実していない」と回答した保護者は、問5で「授業」や「補習・自習」を要望している。
- ◆「授業」や「補習・自習」以外を見ると、小学校では「地域と学校が連携した取組の充実」、中学校では「部活動の充実」、高校では「地域が主催する体験活動の充実」の割合が高く、校種によってニーズが異なっている。

保護者の高い満足度
 ↓
これまでの取組状況や成果を踏まえ、さらに教育を充実

2 教職員アンケート（小・中・高校の教育職員のみ）

（1）土曜日の勤務の状況（Ⅱ・Ⅲ）

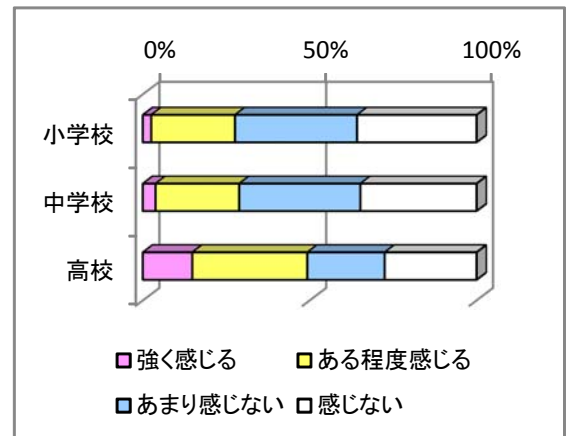
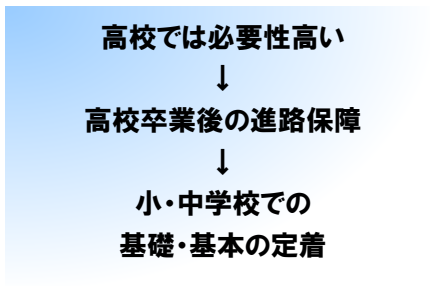


◆小学校は「ほとんど出勤せず」が過半数で、児童もほとんど登校していない。中・高校では出勤している教育職員は多く、生徒も登校。部活動が主要な内容であるが、高校では補習等の学習活動が定着。

（2）土曜日に授業を実施する必要性（Ⅴ）

◆小・中学校では4人に1人が「必要性をある程度感じる」としているが、「必要性を感じない」のほうが多い。

◆高校では必要性を「強く感じる」+「ある程度感じる」が48.9%を占めている。

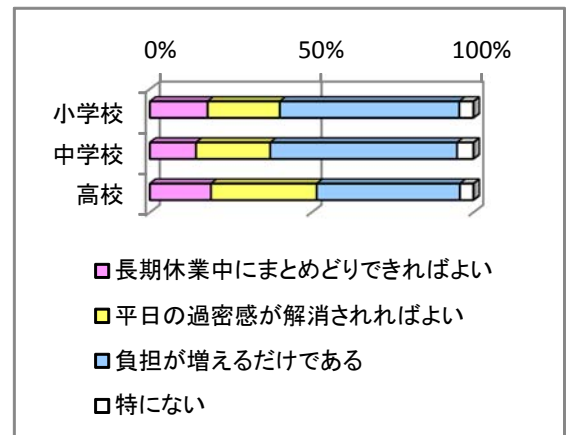
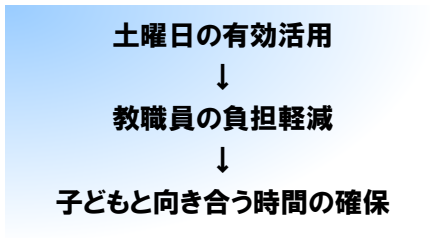


（3）土曜日の午前に登校日を設定した場合の勤務面に関する考え（Ⅵ）

◆「負担が増えるだけである」がいずれの校種でも最も多いが、高校では5割を割っている（43.6%）。

◆いずれの校種においても、「長期休業中のまとめどり」よりは「平日の過密感解消」を要望。

◆「長期休業中のまとめどり」と「平日の過密感解消」の合計は、小学校で39.6%、中学校で36.8%、高校で50.8%である。

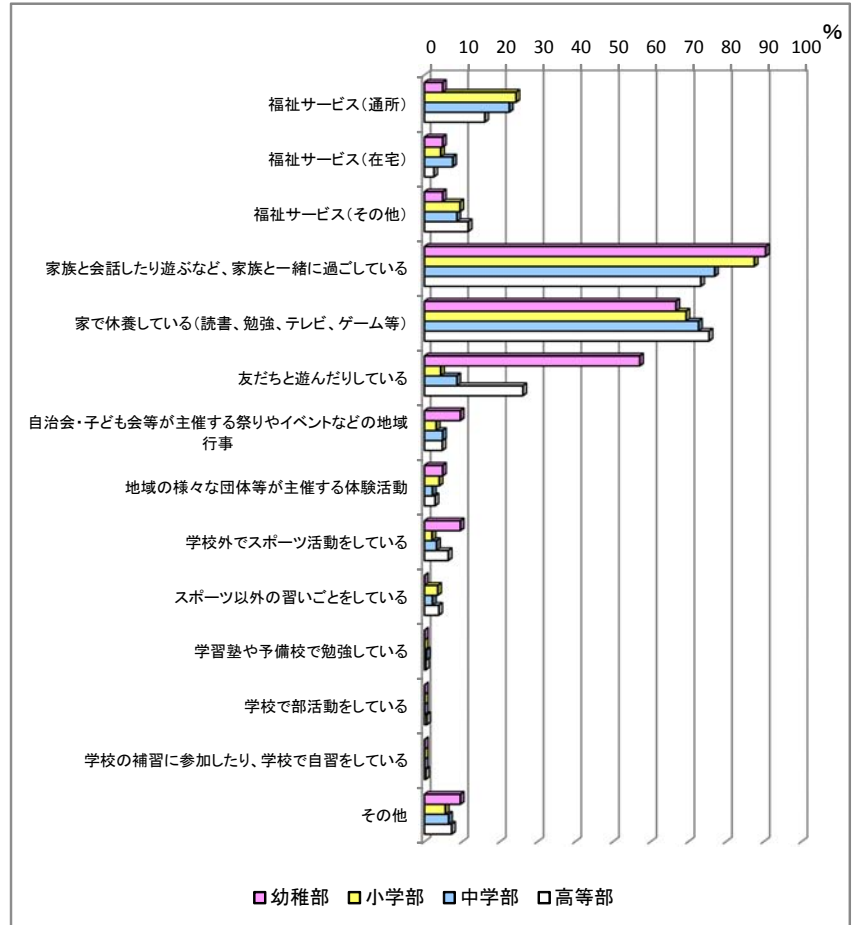


Ⅱ 特別支援学校

1 保護者アンケート

(1) 土曜日の過ごし方 (問2)

- ◆ 幼児児童生徒の約80%が家庭で保護者と共に過ごしている。
- ◆ 「友達と遊んだりしている」が小・中学部で低い。
- ◆ 幼稚部では地域行事、学校外でのスポーツ活動への参加が見られるが、地域の体験活動に参加している生徒は非常に少ない。
- ◆ 部活動や補習等、学校での活動はほとんどない状況である。



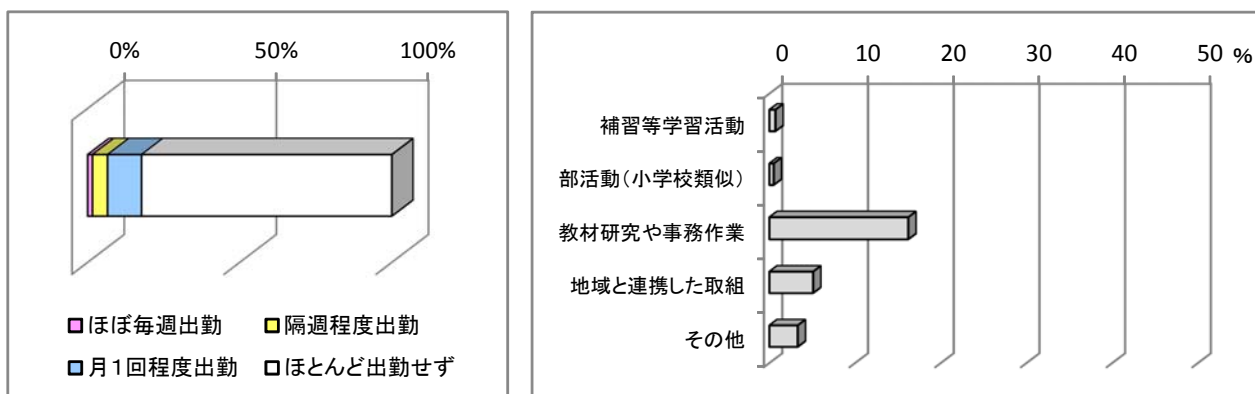
(2) 子どもの土曜日の過ごし方として、今後望ましい取組 (問4 自由記述)

- ・ 土日は休みと子どもも受け止めているので、家で過ごしたり外出したり予定が立てやすい。
- ・ 平日にはゆっくりできない趣味をしたり、スポーツジムへ行ったり、家族と外出したり、今まで通りでよいと思う。
- ・ 福祉サービスは全く家族と別行動なので、親子の外出をサポートしてくれる福祉サービスがほしい。
- ・ 福祉サービス利用で自立を促したい。
- ・ 肢体不自由児が参加できる体験活動がない (身体障害者の参加が想定されていない)。
- ・ 地域行事はできる範囲で参加しているが、手がかかるので参加に迷う。負担にならない参加をしたい。
- ・ 親子又は地域の子供達とふれあえる企画 (遊び、工作、スポーツ、音楽堂でのコンサートなど)。
- ・ 市町村主催で障害理解のあるボランティア中心による体験活動や地域の方とふれあう機会。
- ・ 読書、体力づくり、科学体験、写生会、地域清掃等みんなで楽しくゆったり過ごせる機会。
- ・ 学校の授業。
- ・ 学校を開放して楽しく過ごすこと (お金がかからない、気兼ねが要らない、ゆったり遊べる場所の提供)。
- ・ 生徒同士で勉強し合える子ども学習会などの集まり。
- ・ 今まで通りの福祉サービス利用に隔週で学校があればよい。

- ◆ 福祉サービス、地域、学校それぞれに対して多様なニーズがある。
- ◆ 地域の体験活動等については、障害の程度や家庭の状況等にマッチすればニーズが十分ある。
- ◆ 学校については、施設開放等の要望もあり、安心できる場として認識されている。

2 教職員アンケート（特別支援学校の教育職員のみ）

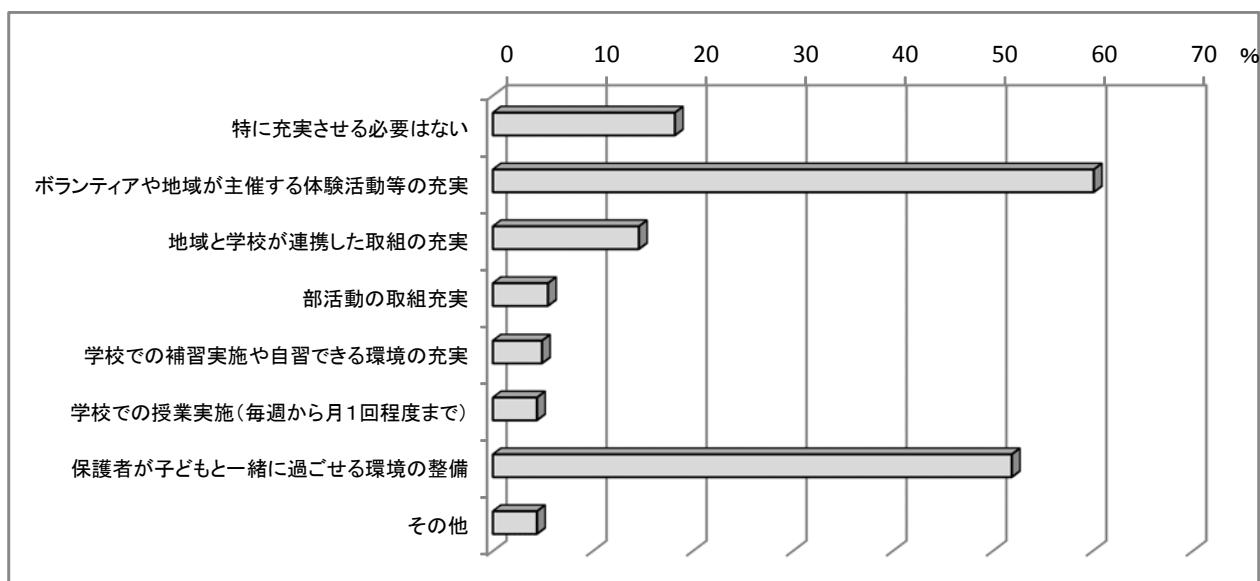
（1）土曜日の勤務の状況（Ⅰ・Ⅱ）



◆「ほとんど出勤せず」が81.6%であり、「月1回程度」が11.1%である。

◆勤務の際の主な内容は「教材研究や事務作業等」である。また、補習等の学習活動や部活動よりも地域と連携した取組の方が多い。

（2）今後の土曜日を活用した教育の在り方（Ⅴ）



◆ボランティアや地域が主催する体験活動等の充実について、必要性が高いと考えられている。

◆保護者が子どもと一緒に過ごせる環境の整備が求められている。

◆地域と学校の連携についてもある程度必要性があると考えられている。

地域社会での生活時間少ない → 幼児児童生徒の自立や社会参加に向けた具体的取組の充実
 福祉サービスの利用進む → 職場定着等に向けた支援等の充実
 相互理解へのニーズ → 障害のある子どもと障害のない子どもとの交流及び共同学習の場の充実
 学校・地域連携の必要性 → 家庭・地域連携における学校の役割検討